

# ☆研究推進だより☆

R5・4・17  
1号

## 1. 授業づくりについて

### ① 1時間の流れ

【算数科の1時間の流れ】

1時間の流れをパターン化させ、学習リーダーを中心に子供たちが主体的に学習に取り組めるように、教師側が意識して毎日の授業に臨みましょう。

つかむ	① 問題1 ② 気づき ③ めあて
考える	④ 考える ⑤ 話し合う
まとめる	⑥ まとめ
深める	⑦ 適用問題 ⑧ 話し合う ⑨ 活用問題 ⑩ 話し合う
ふり返る	⑪ ふり返り

※考える鍵は、問題1の前後で提示する。

○問題1の前に提示…与える鍵

◎問題1の後に提示…つくる鍵

(問題1を知った後に、児童が気づきを出し合う中で、自分たちで導き出せるようになることが理想)

### ② 伝え合い名人について

「伝え合い名人」を教室の全面に貼り、児童が意識して聞いたり話したりできるようにしましょう。使うことで思考させることが目的です。

#### 伝え合い名人

	聞き方	話し方
レベル1	○ 反応しながら聞く。	○ ~ですよ。 ◎ ○○さんは、~といましたよね。
レベル2	○ くらべながら聞く。	○ ~と同じで、... ○ ~と違って、... ◎ ~と違って、...
レベル3	○ ちがいを考えながら聞く。  ○ まとめながら聞く。	◎ だしかに~だけど、... ◎ もし~なら、... ◎ わたしは~と思うけれど、みなさんはどう思いますか。  ◎ つまり ◎ まとめると

☆レベル1

友だちを意識して話したり、友だちの意見につなぐ言葉を使って話したりする。

☆レベル2

友だちの考えと比較して、自分の考えを話す。  
◎ 指導者は意見の比較だけでなく、考え方や課題解決の方法を比較できている姿も評価する。

☆レベル3

相手に意見を求めながら自分の考えを話したり、これまでに出了意見をまとめて話したりする。

◎「伝え合い名人」にある言葉に限らず、友だちの考えにつなげて発言できている児童の姿をその都度評価し、価値付けることが大切です。

## ⑤ ノート指導について

ノートの取り方を全学級で統一させます。考えたことが残る（間違いを残して新たな考えを加える）ノートづくりができるように指導しましょう。

- ・ ページ（マス外）・日付・単元名を書く。  
（単元名については、授業の初めに書く場合も最後に書く場合もある。）
- ・ ④⑤を赤で書く。文字を鉛筆で書き、**周りの枠**を赤で囲む。

④ ⑤ 数倍

④ 倍を表す数が1の数になる、ってどういうこと？

⑤ 長さのちがう3本のリボンがあります。赤・青のリボンの長さは、それぞれ白のリボンの長さは何倍ですか。

⑥ 白のリボンの何倍か赤のリボンの長さですか。

式  $12 \div 10 = 1.2$  答え 1.2倍

《説明》

《関係図》

《線図》

⑥ 白のリボンの何倍か青のリボンの長さですか。

式  $16 \div 10 = 1.6$  答え 1.6倍

《関係図》

④ ⑤

④ もとの大きさの1.2倍や1.6倍というのは、もとの大きさを1としたとき、その1.2や1.6にあたる大きさを表します。

⑤ 3つの飲み物があります。お茶、ジュースの量は、それぞれ水の量の何倍ですか。

式  $600 \div 500 = 1.2$   $1200 \div 500 = 2.4$

1.2	2.4
5/6	5/2
5	10
10	20
0	0

⑥ ⑦は、図をかくの大事なことが分かりました。

必ずふり返りの時間をとる。

授業では、まず、自分の考えを図や表、式、算数用語などを用いて書く。そして、話し合いの後に、話し合いで得た考えを加える時間をとる。

※算数ノートは、授業（全学年）と予習（4～6年）で使います。計算ドリルなどは、算数ノートにはせず、別に計ドノートを購入してください。予習は、授業で使ったところの続きから、児童自身が分かりやすい方法で次の日の予習をさせます。

※復習（自主学習）については別紙参照

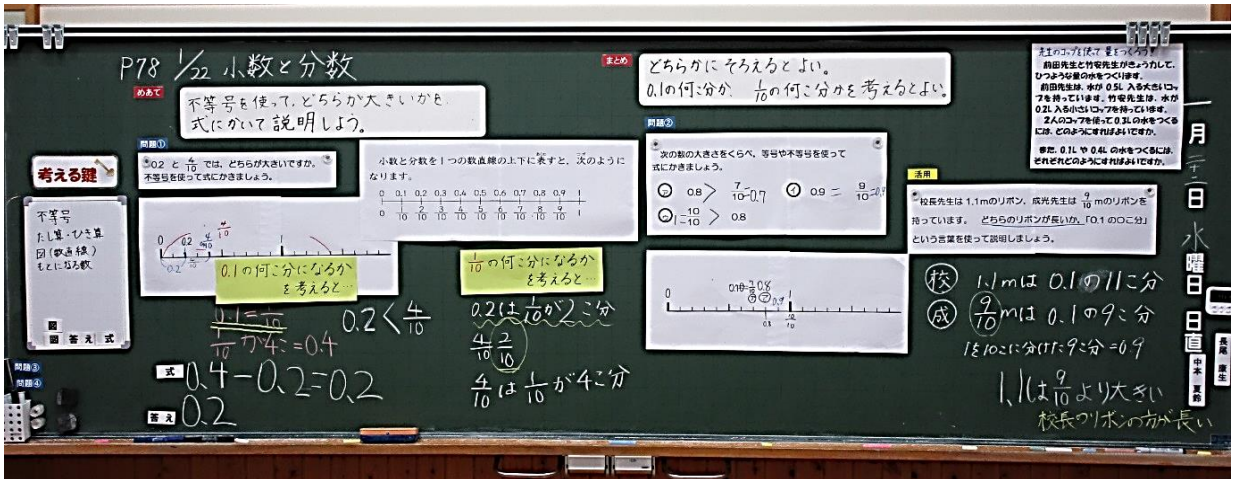
※使い切った算数ノートは、持って帰らせず、担任の先生が集めておいてください。

※多目的ホールに「きらりコーナー」を設け、年度初めは R4 年度の良いノートを置きます。児童が自由に見て参考にできるようにします。

#### ④ 板書について

ノートの使い方に合わせて、児童がノートを書きやすいよう、自分たちで板書をしやすいよう、整理された板書を意識しましょう。指導が必要です。

- ・ ページ・日付・単元名を書く。  
(単元名については、授業の初めに書く場合も最後に書く場合もある。)
- ・ ④ ⑤ をめあて用ホワイトボードに書く。



#### ③ ふり返りについて

「ふり返りのヒント」を机に貼り、ふり返りを以下の観点で書けるように指導しましょう。どの教科でも意識してふり返りができるようにしましょう。

新しい育成を目指す資質能力（3つの柱）の評価では、振り返りによる見取りがとても重要になると考えられます。

- ① できるようになったこと  
成長したこと
- ② よく分からなかったこと
- ③ もっと知りたいこと  
やってみたいこと
- ④ よい考えだと思ったこと
- ⑤ これまでの学習が生かされたこと

#### ふり返りのヒント

内容	具体的な言葉
できるようになったこと 成長したこと	「こんな考え方ができるようになった。」 「前は～と思っていたけれど、 ～と分かった。」
よく分からなかったこと	「今日の～がよく分からなかった。」
もっと知りたいこと やってみたいこと	「次は、～をやってみたい。」 「～のときはどうするのが知りたい。」 「今日の考えを、～で使ってみたい。」
よい考えだと思ったこと	「〇〇さんの説明でよく分かった。」 「考えを聞いて、～ができた。」
これまでの学習が生かされたこと	「～を使うと、～ができた。」

## 2. 学力向上の取組

### ① 活用問題

算数科や理科授業に活用問題を取り入れます。児童の生活に結びついた文章題や、既習事項をいくつか使いながら解く問題などに取り組みさせます。(学期に1回以上)

### ② 書く力の向上

金曜日のドリルタイムを『書きタイム』とし、書く学習に取り組む時間にします。ミニ読書感想文やチャレンジ作文に取り組みさせてください。(別紙参照)

### ③ 自主学習(4年生以上)

4年生以上の児童に宿題として自主学習を出します。朝のうちに児童が集め、校長先生に提出します。(別紙参照)

### ④ 予習(※必要に応じて4年生以上)

4年生以上の児童に宿題として予習を出す場合があります。担任がチェックします。(別紙参照)

### ⑤ 五七五

言葉に親しむ活動として、五七五づくりに継続して取り組みさせ玄関に掲示します。児童の子どもらしい言葉を大切に、自由に書かせてほしいです。そのため、季語がなくてもよいです。学年や児童の実態、国語の単元に合わせ、必要に応じて『俳句』の指導をしましょう。

### ⑥ 読書

毎朝の読書タイムを徹底して行いましょう。児童の図書貸し出し状況や本の種類を把握し、児童の実態や学年に合った本を読むことができるよう指導しましょう。

## 3. 授業準備について

国語…各学級の児童の実態に合わせて、ガイドシートを作成すると進めやすいです。

教科書をスキャンした場合は **R5年→教材**に入れておいてください。

書写…毛筆の児童の名前の見本をラミネートしたものを児童に配布して持たせておいてください。3年生以上は、名前の見本や毛筆の掲示タイトルが **R5年→教材→書写**に入っています。

算数…教科書のスキャンは、**R5年→教材→算数→〇年教科書スキャン**に入っています。来年以降も使えるよう、単元ごとに分かりやすく教材を整理しながら授業準備をしましょう。スキャンしたページをトリミングし加工した教材(ノート用・板書用)等は引き続き、フォルダに保存しておいてください。

図工…各単元の掲示タイトルが **R5年→教材→図工→掲示 title**に入っています。